

火打石谷遡行報告

山行月日】平成 26 年 8 月 17 日

【山行メンバー】CL 上茂・SL 平野・辻本・石橋・内堀・松原

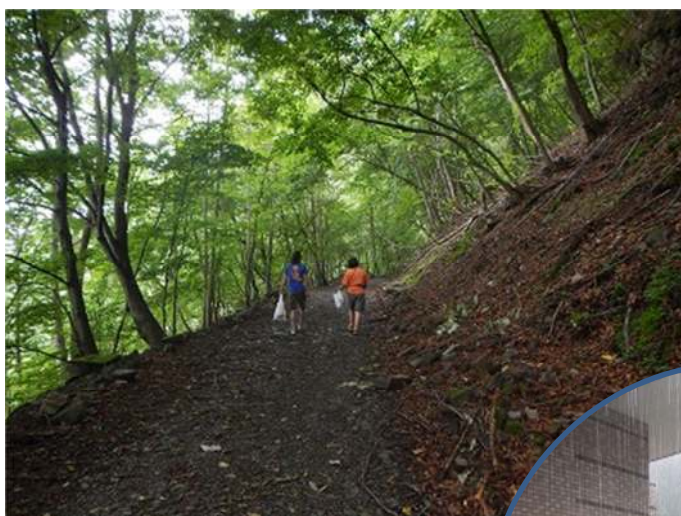
【コース】余慶橋（6：40）～丹波川～火打石谷遡行～1240m枝沢～熊倉山（14：30）
～熊倉尾根下山～余慶橋（17：30）

【8 月 16 日】

当初、奥秩父深山の和名倉沢を計画したが、天候が
よくない。「行く！」ことを前提に、AM4 時千葉を
出発。市川の集合地で鳩首会議を開き、和名倉沢へ
向かうことに決定。しかし二瀬ダムへの道が閉鎖や、
買い出しのミスもあって、本日の和名倉沢は入溪せ
ず、日月の 2 日間で遡行することにし大滝温泉で遊
んだ。4 時頃、入浴中にドッと雨が降り、増水の危
険を感じ、リーダーが和名倉沢から丹波の火打石谷
に転戦することを提案。秩父の大滝村から雁坂トン
ネルを越え、走ること 80 km 弱で丹波道の駅に着
く。本日は道の駅で宴会。



大滝温泉で道路の検討



黒岩登山道でのキノコ採り



二瀬ダムサイトにて



お昼の蕎麦屋



明日の晴れを祈って

【8月17日】

午前5時、丹波の空に青空が広がり始めた。慌ただしく朝食と着替えを済ませ、余慶橋に向かう。丹波川本流を覗くとやや水量が多く濁りもある。6時40分、丹波川本流から入ったが瀬場では胸まで浸かった。



余慶橋手前で沢支度



丹波川本流は増水していた

火打石谷に入ると、谷は暗く倒木も多く荒れていた。しかし下部ゴルジュの滝は快適に登れ、増水のためルート取りが楽しい。8mほどのすだれ状の滝を過ぎると、時々ナメ床が現れるが、長いゴー口になり飽きてくる。あまりの長さに「名物の40mの大滝は崩壊したのか。」「火打石谷は死んだ。」など勝手な憶測や愚痴が出だす。やがてまたゴルジュ状になり、5～6mの滝が数本続くと、右岸の枝沢に待望の、白く輝く40mほどの滝が現れる。Uさんの足の治療と合わせ、暫しの休憩。ザックを下し、滝を数段上って記念撮影となる。遡行が継続されると、5mの滝の先に、30mの滝が出現。これは登れず大高巻きとなった。ガイドブックには「左岸に明瞭な巻き道がある。」とあるが滝に近づき過ぎたようで、そのまま左岸の急峻なザレ斜面を上がって行った。途中、「落！落！」と数回叫び声が上がり、大きな石が音を立てて、谷に落ちて行く。何とか大滝を巻き越し遡行が続く。増水していなければ簡単な6mほどの滝も、釜に浸かって水中のスタンスを探しヘツリながら滝に取付く。クライマーのピラノ、ウバシゲ、松ちゃんはスイスイと上がって行く。滝登りの楽しさはここまで。再び退屈なゴー口となり co1240m の枝沢から、熊倉山を目指し、350m



ほど詰め上がる。稜線に出たのが 14 時 30 分。暫しの休息と靴を履き替へ、熊倉尾根を下山。しかしこの下山は、尾根筋はハッキリしているものの、急で滑りやすい。途中、水源監視作業のためか、虎ロープがあたかも懸垂用に 50 m ダブルロープで、連続 5 カ所ほど垂れ下がっていたのを使わせていただいた。おかげで余慶橋にピンポイントで下ることができた。車に戻ったのが 17 時 30 分。今日は 11 時間弱の行動だった。

再び道の駅丹波に戻り、のめこい湯にゆったり浸りビールで乾杯。中央道の渋滞を避け、帰葉は明日の朝と決め、宴会後は早々とテントに潜り込んだ。





